

# 東京の博物館めぐりー36

## 北区ー2



平野 武宏

今回は北区の博物館めぐりの続きです。区内にある博物館(記念館・資料館・展示館等の総称とします)から寅次郎の好みで選び、独断と偏見の紹介と感想です。詳細を知りたい方は各博物館のホームページをご覧ください。入場料の記載なしは無料です。最寄り駅は代表例と出口です。右上の写真は荒川から見た富士山です(2013年12月22日撮影)。東京からもこんなにきれいな富士山が見えました。

バーチャルウォーク「日光道中二十一次」の途中経過も報告します。

【荒川知水資料館】 北区志茂5-41-1 最寄駅 JR 赤羽駅東口

これまで東京都ウォーキング協会の例会で訪問、その後にゆっくり再訪問、今回が3回目の訪問です。HPを見るとコロナ対応で事前予約制なので、ネットで予約すると当日はダメとの返事、電話で確認すると丁度、学校関係の団体が入っていたとのことで、別の日の10時を電話で予約しました。駅からスズラン通りのアーケードの先を左折、北本通りを横断、ガソリンスタンドの脇の道を直進、新河岸川の新志茂橋を渡ると写真下左の建物が見えます。建物脇の予約者専用の入口(写真下右)から入りました。寅次郎だけの予約で貸し切りでした。



1階は「新しい荒川に出会うフロア」で荒川の情報、水辺の生き物(鳥、昆虫、魚)が展示されています。2階は「荒川を知るフロア」で荒川の水害と放水路の誕生、下流の水害リスクを知る展示と企画展「台風のふしぎ展」が開催中。3階は「荒川を見守るフロア」で荒川流水模型と荒川を上から展望出来ます。

大都市東京を洪水から守るため、1911年(明治44年)～1930年(昭和5年)19年の歳月をかけて「荒川放水路(現在の荒川)」を建設しました。1924年(大正13年)隅田川の氾濫を防ぐ「旧岩淵水門(赤水門)」(写真下右)を建設、現在はその役割は「岩淵水門(青水門)」(写真下左)に引き継がれています。



戦後3番目に高い水位を記録した2019年(令和元年)台風19号では岩淵水門を12年ぶりに閉鎖し、隅田川の洪水氾濫を防止しました。荒川知水資料館を出たら、脇の荒川(荒川放水路)を眺めてください。写真左上は現場にあった説明看板でわかりやすいので撮影しました。

開館は当面10時～16時(通常は平日9時30分～17時、土日祝日10時～17時) 休館日は月曜日(祝日の場合は翌日)、お盆、年末年始です。

詳しくは寅さん歩161 東京にこんなところ-13をご参照ください

【田端文士村記念館】 北区田端6-1-2 最寄駅 JR 田端駅北改札口

駅の目の前にあるので何回か訪問した馴染みのある記念館です(写真下左)。明治中期まで田端は閑静な農村でしたが、1889年(明治22年)上野に東京美術学校(現・東京藝術大学)が開校、美術学校を目指し、学び、巣立った若者たちが田端に住むようになりました。画家を中心にした社交場“ポプラ倶楽部”(芸術家村)が誕生、1914年(大正3年)東京帝国大学(現・東京大学)の学生だった芥川龍之介が転入、1916年(大正5年)室生犀星が移り住み、菊池寛、堀辰雄、萩原朔太郎らも田端に居を構え、田端は“文士芸術家村”になりました。



写真上右は入口から見た館内で正面は企画展示スペース「文士たちのアオハル」を開催、右側は常設展示スペースで人気ゲーム「文豪とアルケミスト」と田端文士村記念館のタイアップ展示です。DMM GAMESより配信されているプラザゲームで田端文士村記念館の文豪がキャラクターに扮しています。寅次郎、ゲームの内容が理解できず家に戻って調べたら、「近代風情の漂う平和な時代に突如として文学書の全項が黒く染まってしまう異常現象が起きる。それに対処するべく特殊能力者”アルケミスト”と呼ばれる者が立ち上がり文学書を守るため文学の持つ力を知る文豪を転正させて敵を討伐するゲーム」とのこと。写真下左は復元した自宅の脇に立つ芥川龍之介、写真下右は菊池寛が転生したキャラクターパネルです。



写真下左は室生犀星(左)、萩原朔太郎(右)、写真下右が堀辰雄(左)、中野重治(右)のキャラクターパネルです。普段は撮影禁止の室内展示もキャラクターパネルと一緒に撮影可で週末は若い女性で混み合うとのこと。



大正時代の田端では、文壇での活躍を心に期する若き文士たちが、新しい雑誌を編集・発行しています。夢を抱いて雑誌を作る日々は、田端文士たちにとっては青春（アオハル）と言える時代であり、人生の転機にもなりました。

企画展「文士たちのアオハル」では芥川龍之介をはじめ、室生犀星・菊池寛・萩原朔太郎・堀辰雄などが携わった雑誌、「新思潮」・「感情」・「赤い鳥」・「金の星」・「文藝春秋」・「驢馬」の関連資料を展示し、田端文士の「アオハル」なエピソードを紹介しています。開催は2021年1月24日までです。こちらの室内展示は撮影禁止です。

開館は10時～17時。休館日は月曜日（祝日の場合は火曜・水曜）、祝日の翌日（祝日の翌日が土・日の場合は、翌週火曜に振り替え）、年末年始（12月28日～1月4日）です。

【北区立 自然ふれあい情報館】 北区十条仲原 4-2-1 清水坂公園内  
最寄駅 JR赤羽駅北口

駅から十条銀座、富士見銀座を直進、環状七号線を横断突き当りを右折すると「清水坂公園」があります。園内には「区民が楽しみながら自然環境への理解を深めるための自然ふれあい情報館」（写真下左）があります。展示は季節ごとのテーマと北区に生育する魚の水槽展示や鳥・虫・魚から見た北区の自然を紹介などです（写真下右）。



年間行事として大人向けに樹木教室、バードウォッチング教室他、親子向けに生き物探検隊、親子のための昆虫教室他があります

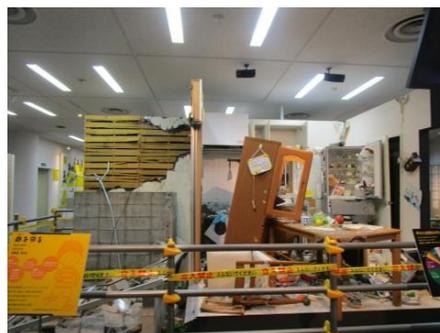
開館時間は9時30分～16時30分。休館日は毎週月曜日（国民の祝日または休日の場合は翌日）、年末年始（12月28日～1月4日）です。

【北区地震の科学館】 北区西ヶ原 2-1-6 北区防災センター内  
最寄駅 南北線 西ヶ原駅1番

北区防災センターは平常時には区民や自主防災組織の人々、児童生徒等に展示の他、地震や煙など様々な体験を通して、防災意識の高揚と防災行動力の向上を図っています。また、大地震などが発生した災害時には、北区災害対策本部のバックアップ施設として、防災無線等の設備を区役所と二重化しており、情報の収集などの役割を果たす施設(写真下左)です。1階・2階が「地震の科学館」(写真下右)です。



まずは命を守ることや地震の被害状況について学びました(写真下左・右)。地震の基礎知識では過去の地震の記録が写真などで展示されています。1703年(元禄16年)元禄地震から江戸時代に8件、明治時代は5件、大正時代は1件(関東大震災)、昭和時代は19件、平成時代(2018年北海道胆振東部地震まで)は17件の地震の記録についての展示がありました。



体験コーナーがあり、地震や煙体験が出来ます。誘われましたが、時間の都合が合わず、失礼しました。

開館は9時~17時。休館日は毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、国民の祝日(土曜日の場合は開館)、年末年始です。

### 【バーチャルウォーク途中報告】

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがF W Aホームページ「Y R・四季の道」に掲載されています。寅次郎、「中山道六十九次」を踏破、

同じ記録帖にある「日光道中二十一次」に挑戦です。11月25日、日本橋を出立、12月12日、日本橋から12番目の小山宿(現在の栃木県小山市に位置する)に到着です。

自宅近くにマイお散歩コースを見つけ、その距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」には「ひとりで歩くコーナー」があり、コースが紹介されています。マイお散歩や一人歩きでの距離を累計して進む「バーチャルコース」が多く掲載されていますのでご利用ください。歩く際は密閉・密集・密接の3密にならないようご注意ください！

次回は 東京の博物館めぐり-37 です。

平野 寅次郎 拝